

川西町

# 町政のひろば

No. 6

## 45年度事業のポイント 課長、予算を語る

昭和45年6月1日発行

発行／川西町役場

編集／企画室

町政のひろば第六号をお届けします。内容は、広報かわにし四月号でお約束した「昭和四十五年予算について」です。

今回は、全課長から、それぞれ所管の予算について説明ねがう予定でしたが、課の性格によつてそうとばかりはゆかず、田口収入役室長からは役場の支払日に関するお知らせ、滋野議会事務局長からは議会の簡単な解説記事をお願いする結果になりました。また、教委関係では予算が入り組んでいるため、高橋良平宇校教育課長の原稿はいただけない結果となりました。ご了承ねがいます。

いずれ、高橋課長からは、学校教育の現況について広報かわにしの方に筆をとつていただくつもりです。

町の広報に対するみなさんの積極的なご意見をお待ちしています。



広域体制が検討されている消防団（ことしの出ぞめ式から）

### 役場事務の裏方・総務課

総務課長 南雲 春雄

総務課の予算は、総務費（企画・総務課の予算を含む。）と消防費で構成されます。

総務費は、①全般的な管理調整事務の経費 ②町の共通経費で他の款の事務（事業）の増減や変化に特に関係なく、通常必要とされる幅広い役場事務の裏方のような部

れる経費で、本庁及び出先機関の電気料・暖房料等、戸籍住民基本台帳、選挙、統計、職員人事等の費用 ③他の款に区分できない多面的費用、たとえば退職手当等を内容としています。したがって、

門も多く、予算内容としては地味なもので、皆さんの興味も薄いものと思われま

消防費は、消火業務のみならず、広く水害・地震等を含んだ、災害防除または災害発生の場合の被害の軽減のためのすべての活動費を支弁する経費です。

### 組合組織の常備消防を検討

以下、重点項目と本年度特に改正された事項について述べます。

まず総務費では、非常勤特別職報酬を、従来の年額制から勤務日数を根拠とした日額制とし、日額報酬のほかには日当五百円が加算されます。嘱託員には、会議日当が新設されました。

おまなものは、

- 合同竣工式費 四〇万円
- 低運賃車補助金 一、二五万円
- 交通対策費 四四万円
- 知事選挙費 七〇万円
- 国勢調査費 二六万円

なお、総務費にかぎらず、最近特に人件費の増高が目立ち、財政面からも歳出の大きな比率を占めています。これは、事務の質・

量の増加や技術化による機構の膨張と職員数の増加に起因します。

消防費では、千手簡易水道工事に伴う消火せん（栓）二十七か所がありま

特別会計でまかなわれませんが、関係住民の皆さんからの寄付金二十七万円を含め、ホース類は百一十円で整備されます。

ほかに

橋地区自動車ポンプ 二二〇万円  
大倉・越ヶ沢可搬ポンプ七〇万円  
防火水橋・その他 一、六五万円

なお、消防の新しい方向として、救急用務を含めて、十日町市と組合組織による常備施設を設けることを調査・研究するため、特別委員会が誕生していますが、健康で文化的な日常生活と、豊かな地域社会を築き、さらに、行政の効率化を図るための今後の施策が期待されます。

### 新築城跡に歴史を伝える

商工費予算について申しあげると、歳出の合計額は、千九百二十万円で、予算内容は商工総務費・商工業振興費・観光費に区分されます。

商工総務費は百五十五万二千円、ほとんど人件費です。

商工業振興費は、地方産業育成資金貸付金が三分の二を占めてい

ます。この資金は、本年度、県と町で百五十万円ずつ合計百五十万円を、新潟県信用組合千手支店へ、年間定期預金することによって千手支店にさらに六百万円を加え九百万円の資金で、商工業者の事業に対し育成資金として貸し付け

ます。この資金は、本年度、県と町で百五十万円ずつ合計百五十万円を、新潟県信用組合千手支店へ、年間定期預金することによって千手支店にさらに六百万円を加え九百万円の資金で、商工業者の事業に対し育成資金として貸し付け

金は百万円。それに、県貸付金の利子六万円を合わせて、高工業振興費は四百六十万円です。

観光費は四百三十九万円。その内訳は、上野地区の申し出による節黒城跡展望台の建設費三百万円、伊友の千手観音境内から月見が原公園への通路拡張工事費六十万円、この二件が請負事業。その他、観光道路の補修費十五万円、現在の

観光道路から千手城跡に向かって峰伝いに観光道路を開削する工事費二十万円、川西町観光協会の補助金三十三万円(例年行事の補助金を除くと実質的には十万円の補助金)と観光事業に要する経費十一万円、以上です。

なお、節黒城跡展望台建設のため、上野地区で二百万円を寄付することになっていいます。

### 教育費の総額は六千五百万

教育費の総額は六千五百万

教育費は、総務費に次いで二番目に多く、一四・六五%を占める六千四百九十七万九千円となりました。

その財源内訳としては、国県補助金五百三十八万、地方債三百四十万、幼稚園授業料二百十六万、プール建設寄付金百十三万などを見込み、残り五千二百九十万余は町税・地方交付税等の一般財源とすることです。

歳出を性質別に分けると、人件費として二千四百七十一万、これは、委員報酬、教育長・事務局職員・町費教員・学校用務員・給食炊事員等の給料・手当・共済費、学校医・宿日直代行員の手当・冬季分校用務員給などです。

物件費は一千九百九十八万、事務局や各学校等の消耗品・燃料・光熱水費、通信運搬費、賃金、旅費、備品購入費、報償費などであり、おもなものに、補助教材四百五十五万円があります。



教育効果をあげるための努力を続けています。

要保護児童生徒に対する就学援助費、特殊学校等の就学補助金です。負担金・補助金百七十三万は、県や都市の教育機関負担金、寄宿舎居住費補助、遠距離通学費補助などです。

**プール建設**

ことしは上野小

建設事業費一千二十二万は、上野小学校のプール建設及び川西中学校屋体改装、千手定校特別教室施設等です。

また、項目別に列記すると、一項教育総務費八百八十三万七千円は、教育委員会費、事務局費、仙田・上野の冬季寄宿舎費、各種負担金等の教育振興費が内訳。

二項は小学校費で三千二百六十三万一千円、町内七つの小学校本校・二つの分校・六の冬季分校の管理費、国庫補助教材・就学援助費等の教育振興費、プール建設の学校建設費に分けられます。

三項中学校費、一千二百四十九万一千円は中学校四校の学校管理費、小学校費同様の教育振興費、屋体改装の学校建設費等です。

四項の高等学校費、百九十九万六千円は千手・仙田両定時制高校の管理費です。

五項幼稚園費の三百六十三万七千円は川西幼稚園の管理費。

以下、六項社会教育費(二百九十八万五千円)、七項保健体育費(三百五十五万五千円)については社会教育課長の説明に譲りますが保健体育費の中には、仙田中学校給食共同調理場の人件費・管理費もはいつていいます。

豊かな町の形成づくりを目標に、愛郷心にもえた心身ともに健康な人づくりの輪を広げていくことが、ことしの社会教育の基本方針です。

多様な町財政の中で、社会教育や公民館の予算だけは毎年増額してもらっていますが、ことしはとくに、町の未来をにやう青少年の健全育成をはかるための具体策を樹立し、また、青年学級や婦人学級、家庭教育学級や高齢者学級の充実をはかりなさい、ということ、係長クラスの職員一名を増員

### 社教職員を一名増員

金子 幸作

していただきました。ありがたいことです。予算も前年度より約二十万円ふえて、総額三百五十七万円となりました。職員一同、皆さんのご支援をいただきながら、一体となつて事業の企画運営に当たる所存ですが、皆さんからのそのつどの呼びかけもお待ちいたしております。

社会教育総務費百八十万一千円、公民館費八十七万五千円、青年学級費三十万九千円、児童福祉総務費の一部十六万一千円、保健体育費四十二万五千円ですが、皆さん

に直接関係のあるおもなものを拾うと次のようになります。

**青少年の健全育成に 16万円**

◎学級や講座の講師助言者の謝礼九万円、◎社会教育関係団体や学級・グループなどのリーダー研修費二万円、◎家庭教育学級(二学級)開設費二万円、◎文化財調査費七万八千円、◎婦人の生活記録「おかあさん」第二集印刷費三万円、婦人学級育成費(年三十時間以上を継続的に学習する学級に一等賞当たり四千五百円を交付)十六万九千円、◎町婦人会補助金六万円、◎那婦人会補助金七千円、◎PTA補助金二万円、◎成人式の講師と新成人講座の講師謝礼三万円、◎成人式(該当者二百九十名、記念品、式典費)二十七万五千円、◎各種講演会の講師謝礼二万円、◎敬老会委託料(七十歳以上、九百五十名、一人当たり約百八十円、婦人会に配分)十六万二千円、◎青年学級講師謝礼六万五千円、◎移動青年学級費三万円、◎学級生大会費一万円、◎学習教材費四万二千円、◎青少年の健全育成費十六万一千円、各種スポーツ教室・行事・テスト十三万円、県民スポーツの日行事三万円、学校開放体育用具六万円、◎那青年大会五万七千円、◎野外活動二万円

### 一般会計歳入のあらまし

#### 発足した大型予算

昭和四十五年度一般会計当初予算は、総額四億四千三百三十三万八千円と四億の大台を突破した大型予算となりました。その伸び率は、前年度当初予算に比較すると四二・一%、最終予算に比べても一〇・三%の伸びとなっております。これは総合開発計画に基づく各種の事業等が多く織り込まれていることによるものですが、特に、役場庁舎増築費・林道開発費等前年度当初予算に計上されていなかったものや、災害復旧費・水道会計繰り出し等が増額されたことがおもな理由です。

この大型予算の歳出については、各課毎に具体的にその内容の解説が紹介されていますのでここでは歳入のあらましを中心に、全体として見た予算の性格等について述べてみたいと思えます。

#### 一般財源と特定財源

財源としての歳入は、これを大きく二つに分けて一般財源と特定財源に分類することができます。一般財源というのは、町が自由に使うことができる財源で、町税・地方交付税・自動車

# 雪の対策に「としも」も 全力投球

星名 仁 作

月旅行時代の到来よりも、気象調整自在の世の中にならないものでしょうか。年々、車両の増加と大型重量化に伴う交通網はあとを断たず、交通事情は激化の一途です。また、災害は、忘れたころでなく、連年のようにやつてもきます。宿命的といわれる冬期道路の確保、通障の問題、地域開発促進等に対応するため、道路の整備や河川対策、災害復旧が急がれておりこれらに、多額の経費を投入している現状にあります。

## 町道関係で 32カ所を改良

町道については、公共としての本質からも、寄付金をいただくならんらかの特定道路財源によって施行するのが望ましいことです。しかし、要改良が所があまりにも多く、やむなく寄付を仰いでいる実情にあります。その負担割合は一定ではありませんが、前年度より若干軽減し、一〇〇〇四〇多以内でお願いしました。

まず、第一点として投資的事業があります。區道については、元町から約八百メートルの改良と、田戸から越ヶ沢トンネル口付近までの資材運搬道路、赤谷付近の用地買収、及びトンネル工事の一部着工を期待しています。また、中仙田地内を三種舗装が施行され、状況によって田戸地内も舗装される予定です。區道については、赤谷・野口地内を特設一種、室島地内を凍雪害防止と防雪害事業、千手地内に融雪施設、中仙田地内に四種舗装、仁田・新町・野口・原田・白倉・室島・高倉の各地内・十日町市稲葉く、小泉の以上に舗装、大倉地内に辺地改良、新町新田・岩

その内容として、工事請負費二千五百三十九万円、用地買収費百五十四万円、補償賠償金九十二万円を計上しています。

河川関係については、公共事業で木落・上新井地内の信濃川堤防護岸工事を予定しています。

また、雪害対策関連工事として小河川流未処理のため、小規模改良工事を山野田川ほか四か所、計百十万円計上しました。

次に、第二点として、消費的事業について述べてみます。

雪害対策と道路維持管理について、必要最小限の予算を計上しました。毎年忘れることなく必ず来てくれる冬将軍との戦いは、道路確保を軸に、その要請は年々強くなってきました。

道路除雪にあたって、家屋連担地域の消雪パイプ工事のため、深井戸掘削工事費として二百九十九万円、排雪場所に対する補償金等三十万円を各計上しましたが、駐車中の車両に対する損傷については原則として補償をしない方針です。また、主動力となつて活躍する機械の借上料は、当初予算でなく補正で処理することになりました。



これからは道路の安全施設もたくさんできます。

未舗装のための放雪砂利については、消雪時期等の関係もあつて特定の人たちの犠牲にたよることが多いので、本年度は、道路除雪協力会の協力を得てしまつし、不満を少なくしたい考えであります。

除雪指定路線でない道路は、雪上車の運行可能な範囲で圧雪道付けをしますが、その他の路線については、地域のみさんの労力で道付けを願っています。

また、橋の除雪についても同様のことがいわれ、雪上車等の保安要員賃金とともに百六十七万円を計上しました。その他、圧雪機による道付けに対する燃料費・修繕費についても考慮します。

## 道路補修の 原材料に三百万

一方、道路補修については、除雪による損耗と車両運行による路面損傷が著しいため、各地区の路線状況に即した補修員を配置することにしました。補修用原材料の購入に三百七十二万円を計上、地区の援助をいただきながら、補修と維持管理に努める考えです。

第三点は災害復旧事業です。災害については、町道・河川等の公共災害と、農地・農業用施設等に対するものに分かれ、いずれも早期復旧が望まれています。本年度は、公共災害では、河川(護岸)五か所・道路八か所、計十三か所で請負費八百七十六万円を計上しました。農地農業用施設災害については、ため池一・農道八・水路十・頭首一・橋三・保全八、合計三十一か所の工事請負費二千六百五十六万円です。これら事業に対する負担割合は、農地農業用施設のみ五割以内をお願いいたします。

その他、十万円以下の小規模工事について百九十万円を見込んでいます。さらに、個人で復旧したかたには、三〇多以内の補助金を交付するよう予算措置をしました。

災害復旧事業の財源としては、その性質から、大部分が国県補助金や町債です。

以上のほか、応急用原材料や水防資材の購入に五十五万円を見込み、不時の災害発生に備えました。なお、田戸に、県営施行の地すべり防止事業が着工の予定です。

最後に、ことしは消雪が遅れたうえ工事量も多くあり、労務関係の不足とあわせて、はたして、計画どおり事業が進められるかどうか心配しています。近くで工事が始まりましたら、特段のご協力を願います。また、限られた人員、多くの事務量、加えて天候相手という仕事の性質上、ご不満の点は、どうか、寛大なおしかりとともに、建設的なご意見も寄せていただけるなら幸いです。

取得税交付金などがこれに当たります。特定財源というのは、ある事業や事務に伴うヒモつきの財源で、国県支出金(負担金・補助金・委託金)・地方債・分担金・負担金・使料・手数料・指定寄付等があります。特定財源は、その事業に直結した財源ですから、これを節約して他へまわすというようなくともできませんし、特定財源だけでできるという場合は少ないので多くの場合、これに一般財源を付け足して支出しなければならぬものです。したがって、町が独自の立場で自主的に行政を運用するためには一般財源の充実が先決となります。それで歳入総額の中で一般財源の占める率が、財政の自主性・健全性をはかる一つの尺度ともなるわけです。新年度予算における一般財源率は六五・六多となつていて、前年度の七四・一多よりは低下していますが、これは予算の総額が大幅に伸びたためであり、それでもなお国の地方財政計画における自主財源の率六五・五多より若干上まわっています。

## 大きく伸びた 地方交付税

一般財源の内容についてのあらましは次のとおりです。町税は、総額一億一千二百二十万円中歳入総額の二五多に当たり、地方交付税とともに一般財源の基幹となるものです。町税の中では市町村民税と固定資産税の二つが中心で町税全体の

# 社会福祉の予算約三千万

社会課長 根津 正治

昭和四十五年度の社会福祉関係予算は二千九百二十二万円で、前年度当初予算に対し、七十九万一千円(三・三%)の増となりました。このように大幅な増となつたのは老人福祉業務の関係で、ご承知のような老人人口の増加と、社会的・経済的変動による心身両面の生活不安等の増大から、一般住民の老後の生活に対する関心はとみに高まり、老人福祉施策の充実強化が要請されてきたので、これを最重点事項として、大幅な予算を計上したことにあります。

むろん、従来から行なっている保育所の内容、身障者・母子世帯重度心身障害児・生活困窮世帯等の援護についても、さらに充実を図つてまいります。また、日常生活のあらゆるご相談に応じ、明るい家庭づくりのために、助言と援助を行なう心配ごと相談所を、引き続き毎週一回各地区で開設し、児童の心身両面について指導助言をする家庭児童相談室も、本年度は、さらに回数を多く開設する予定です。

老後保障の一端として充足した国民年金については、皆さんから保険料の未納もなくご協力をいただいています。この制度は、寿命の著しい伸びによる高齢人口増加と、家族制度の変革によつて老人の座が不安定になつてきたことなどから、老後の生活を守るために

できたもので、民間の保険と違いその時々々の生活水準に合うように年金額を引き上げています。すでに数回かの改正に加えて、本年はさらに最近の急速な経済成長と生活水準の向上に見合った改善がなされ、保険料を二十五年納めた場合、夫婦で月二万円支給されることになりました。年金の増額に伴い、皆さんから納めていただく保険料も引き上げられ、現行の月二百五十円と三百円が、本年七月分からは一律四百五十円になります。どうか、老後を託す身近な年金としてご信頼いただき、保険料納入にいつそうご協力願います。

次に、本年度の社会福祉面の新規事業について述べてみます。

第一は、老人の教養の向上及び保健・レクリエーションの場として、老人のいこいの家建設。第二に、高齢者の長寿を祝ひ、敬老思想を高めるため、敬老祝金の支給。第三、住宅で寝たきりの状態にあるお年寄りを慰めるとともに、老人福祉の向上のため、寝たきり老人見舞金の支給。第四、長期間就床中のお年寄りに特殊療養を貸与第五、精神または身体に重度の障害を持つ児童の福祉増進のために重度心身障害児扶養手当を支給。その他、小規模児童老園地の設置等を計画しています。

以上、新年度予算に関連した福祉関係事業のあらましを述べてきました。盛りだくさんな計画となっておりますが、そのいづれも、皆さんのご理解と協力がなければ完全実施は不可能です。その点、どうかよろしくお願ひします。

なお、これら予算の財源内訳は国庫支出金七百九十七万七千円、一般財源一千四百九十九万七千円、その他七百十四万六千円、合計二千九百二十二万円で、



総合開発計画の眼目のひとつ工場誘致の現場調査

額に抑えられ、全体として効率的運用に苦心を要するものと思われ

ます。

企画費、百二十二万四千円で、企画関係事務費だけが計上され、企画室職員給与は含まれていません。三十六万円の減となつてい

るの、総合開発計画の策定が終つたのでその関係経費が不要となつたため。町例規集及び追録代九十三万円、法令集追録等の消耗品十六万等がおもなものです。

八六万を占めており、特に固定資産税は七千三百九十二万円で前年度より約九百万の増となつています。この中には、第四期発電工事の完成に伴う増額分も含めて国鉄大規模資産分四千四百六十一万円が含まれています。なお、市町村民税については、税率を約八分引き下げたための減額額が百万円以上となつてい

## 庁舎増築 現庁舎と同規模

庁舎建設費、新年度の重点事業の一つとして役場庁舎増築費二千五百万円が新規計上されました。増築の構想は、現庁舎の後方へ同じ規格の鉄筋コンクリート四階建てで一六メートル(八間四尺)を建て増しする予定となつています。財源としては、前年度会計で積み立てた基金からの繰り入れ千三百萬、起債千五百万のほか七百萬の一般財源を予定しています。

地方交付税は、一定の基準で計算された結果により財源不足とされた額を補てんするため、因から交付されるものですが、その財源は、国税三税、すなわち法人税・所得税・酒税のそれぞれ三・三%と定められており、地方固有の財源といわれてい

ます。町が新年度予算に計上した交付税は一億六千七百七十万円で、歳入総額の三七・八%を占める最大の財源となつています。交付税の対前年伸び率は約二三%となつており、地方財政計画の伸び率二一・八%を上まわる数字となつています。

自動取得税交付金は、十五万円以上の自動車を購入したものが購入価格の三%相当額を納める県税であります。納付総額の三分の二が市町村に対して配分されるものです。配分の率は、市町村道の延長と面積に按

## 財政を担当する企画室

企画課長 丸山 精一郎

歳出面における企画室関係予算は、分担している業務に依りて事務処理経費、財務関係経費、建設経費に分けることができます。以下予算書の順序にしたがつてその概要を見て行くことにします。

文書広報費、広報かわにし一や一町政のひろば、などを発行するための経費で総額五十三万五千円は前年度とほとんど同額に近い二千円の増。内容は、当然のことながら印刷費が全体の八〇%を占めていて、あとは消耗品費、旅費、

物敷地買収費二百十万円及び庁舎改装費六十四万円等が減となったためです。その他の内容については、前年度並で、町有建築物の火災保険料五十万、住宅修繕料五十万、借地料二十五万等全く同

各種事業の資金として毎年借り入れる町債は、五年ないし二十五年くらの年賦償還となつています。それらについて四十五年度中に返さなければならぬ額の合計額が公債費として計上されており、義務費として削減の余地がないものです。総額二千三百一十二万二千円のうち千四百八十三万九千円が元

分されますが、新年度予算では五百万円が計上されており、前年度当初より二百萬円の増となつています。

以上のほか繰越金・財産収入及び諸収入の一部を含めて、一般財源の総計は二億九千七十二

入されるものがあり、実際の返済は百四十万ほど増となっております。分はそれだけ少なくなるわけですが、予備費は、予算外の支出または予算超過の支出に充てることになつていますが、実質的には職員給料として一・六割に当たり、まだ少ない額ですが、それでも前年度より

### 総合農政の元締め

産業部長 佐藤 克平

農業をめぐる諸情勢の変化は激しく、農業がこれに十分対応できないため、いろいろな問題が生じています。そのため、政府は総合農政を推進してゆくことになりました。それは、米ばかりでなく、畜産物・野菜・果実などを合わせて総合食糧として考え、生産構造価格および流通のすべての施策をバランスのとれた形で総合的に進めてゆくことです。

これを頭に置いて、まず、農業の生産性を高め、その近代化を図るため、土台である農用地を整備して機械の導入を容易にし、水管理を効果的に行なえるようにする必要があります。また、新しい農用地を開発して、生産の場を拡大することもたいせつです。

したがって、引き続き、かんがい排水事業・は場整備事業・農道整備事業を重点的に進めます。米は、四十二・四十二年と大豊作に恵まれました。これは、天候もさることながら、土地改良や技術向上などの成果が、農家の生産意欲と結びついて生みだされたものといえます。しかし、米の総需

要量が減少傾向にあるとき、これからは増産一本槍でなく、良質米を高い生産性で作ることが課題になりました。

### 畑作の基盤も強化

また、水作りでは条件的に劣る地域は、需要の伸びが期待される作物へ転換を進める必要があります。特に、畑作の振興を図るために、立ちおくりされている畑地の基盤整備を強化しなければなりません。

いままで、畑作は雑穀・いも類を主とし、他は自給菜園的なきわめて零細規模で生産性が低く、開田等により減少するばかりでした。そこで、この小規模な分散栽培を排除した、計画的栽培方針に基づき団地の育成に努力します。

その他、飼育頭数等の下降気味な畜産については、こんど農業経営の近代化とか消費構造の変化に応じて対策を講じ、畜産についても、愛園の集団化から収縮の機械化にいたるまで、一連の省力技術を導入し、生産性の向上と農作業との調整を図ることが必要です。

なお、ほかにも水産や林業等、  
 ○桑園能率増進補助 三十五万円  
 ○桑園土質改良補助 一十一万円  
 ○壮蚕機械化導入補助 八万円  
 ○小規模造林補助 七万円  
 ○錦鯉組合補助 二〇万円

### 農業共済事業 水稲掛金率を改訂

次は特別会計の農業共済事業ですが、前年比で約一〇五割に当たる二千四百八十二万三千円の規模になりました。うち千七百一十九千円が水稲・蚕繭・家畜に対する純然たる共済事業費、残り七百八十九千円は事業運営のための業務費です。(建物共済事業は、県共済連からの委託事業であり、予算には計上していません。)

まず、事業勘定について、おもな収入は、国の掛金負担に關する交付金・国及び県共済連からの保険金と無事もどし金・加入者負担掛金・繰越金です。このうち、繰越金は不足金で補填準備金・無事もどし準備金・特別積立金及び前年度繰越金で、総額六百七十三万五千円になります。

歳出の主役は九百四十九万七千円の共済金で、その内訳は水稲八十八万九千九百四十四円・蚕繭二十九万

- たばこ耕作社補助 一五五万円
- こんにやく組合補助 三万円
- 産米改善対策協議会補助 二〇万円
- 農業機械化講習補助(大型) 二〇万円
- 農業機械運転技術講習受講補助、受講期間一週間・受講人員は六人程度 三万円
- 畑地土質消毒補助(対象作物は葉たばこ・加工トマト) 一〇万円
- 共育育苗施設補助(対象は葉たばこ・水稲) 二〇万円
- 地域時産事業補助(上野中子の畑地かん水施設) 五〇万円
- 青年研修参加補助 四万円
- 集団栽培組合育成補助(下平新田・上新井・山の根の各組織に対して) 一五万円
- 農業機械運管連絡会(仁田・上野・伊友)補助 一十万円
- 優良種豚導入補助 三〇万円
- 養豚クラブ育成補助 三万円
- 和牛肥育振興補助 八万円

### 農業委員会の活動

農業委員会は、職員給を別に用弁費・旅費、各種の負担金で占めていきます。したがって、予算として総額で百三十三万四千円、そのうちの八四〇強を委員報酬、費

特定財源については、町債及び国県支出金の大幅な伸びが目だつていますが、これは事業量がふえたことを端的に示す新年度予算の特長です。特に町債が三千三百十万円と一挙に前年度の二・六倍に伸びており、過去十年間の最高となっております。これが注目されます。これは、庁舎建築事業債の千五百万円だけでも前年度総額を六百万も上まわるところへ、林道開設事業債・刃地債等が新規計上され、その他道路改良・消防・教育・災害復旧債等も軒並増額されていることによるものです。

### 特定財源に見る 事業量の伸び

特定財源については、町債及び国県支出金の大幅な伸びが目だつていますが、これは事業量がふえたことを端的に示す新年度予算の特長です。特に町債が三千三百十万円と一挙に前年度の二・六倍に伸びており、過去十年間の最高となっております。これが注目されます。これは、庁舎建築事業債の千五百万円だけでも前年度総額を六百万も上まわるところへ、林道開設事業債・刃地債等が新規計上され、その他道路改良・消防・教育・災害復旧債等も軒並増額されていることによるものです。

業務勘定については、歳入は、賦課収入・国の事務費交付金・共済連からの事務費収入・利子・繰越金等です。賦課単価は、前年同様水稲十アール当り六十円・蚕繭一箱七十円・大家畜百二十円・均等割一人七十円で、県平均の二分の一以下という低い単価です。業務勘定の歳出は、管理費・損害防止費・損害評価費などです。このうち、加入者に還元されるものは六十二万五千円ほどで、共同防除活動費・蚕室器具の消費具・家畜診療費等の補助金として交付します。

### 健全財政をめざして

機会に、事務分野の一端を紹介してお許しをいただきます。農業委員会としては、まず農地調整事務があります。これは、農地を売買や農地以外の目的に使用する際の許可、その他、いっさいの権利の取得・施設に対する許可の手續き、農業関係の紛争調停、土地の相続・贈与登記等に關する

### 健全財政をめざして

国庫支出金は四百三十八万円で、前年対比五・一割の増となつており、災害復旧関係の国庫負担金・補助金、町道改良補助等が増額のおもなものです。県支出金は三千三百二十五万円で前年度のちようど倍増となっております。これは第二年度にはいつた県単山振事業や林道開設補助のほか、社会福祉・児童福祉関係補助等が大幅にふえているためです。その他、繰入金は庁舎建築基金の分が増となつており、また財産収入のように半減しているものもありますが、分担金負担金、使用料手数料などは自然増程度にとどまっています。

相談などです。

また、農地を買い場合や災害による家屋の新築・負債整理などに對する融資も取り扱っています。

農地取得資金については、一般農家で最高二百万円、利率三分五厘、最長二十五年の年賦償還というものです。年間一千万円程度の利用状況です。なお、農地の売買は平均して年に三百二十件面積にして約一十ヘクタールが動いています。

特種学校に入学する時や農耕用の免税軽油購入のための証明書発行を十分に活用ねがいます。

行も農業委員会の仕事です。

このほか、農政に関して、農地または農業を対象にした法律が制定される以前の段階で、農業者に不利とならないよう、全国組織を通じて運動をすることも重要な分野です。その例として、農氏年金の制定、農業振興地域整備法、後継者育成対策のひとつである農地の生前一括贈与による贈与税と交換する農地の登録税の軽減措置等があるのはご承知のとおりです。

どうか、農業委員会というものを十分に活用ねがいます。

### 町営水道の事業

#### 八幡町長 数藤 修三

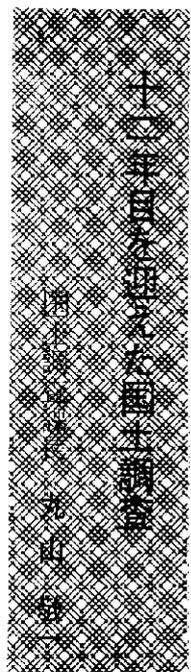
千手地区簡易水道特別会計は、前年度当初予算に比べて六百七十四万三千円の減額となっています。

これは、昨年予定していた工事が補助金の激減したこと、十月上旬に始まった工事が十一月中旬の降雪で全工程の六分の一ほどしかできなかったことにより、その分を本年度施行するための予算です。まず、歳入とその内訳ですが、これは、下の表(計算式)のとおりとなります。

次に、歳出の主たるものは建設費五千七百九十一万二千円で、このうち補助対象工事費を四千二百七十一万円、流末工事費千二百二十万円と見込んであり、あとは一般管理費の三百九十九万一千円、維持管理費百六万三千円、公債費百十六万一千円、予備費五十万円と

国庫補助金	(本工事費 42,710千円) × (補助率 0.25)	= 10,677千円
起債	(本工事費 - 補助金) × 0.75	= 24,000千円
分担金	664戸 × 1,050円 × 7月分	= 4,880千円
負担金	664戸 × 1,600円 × 7月分	= 7,436千円
一般会計繰入金	(総額 64,627千円) - (分担金 + 負担金 + 国庫補助金 + 起債 + 8千円)	= 17,681千円

いつたしくみです。以上が歳入、歳出の概略ですが川西町始まつて以来の町営水道ということと、完全設計後の予算編成が必要であると考えられます。



千手地区簡易水道の地籍調査

川西町の国土調査事業は、昭和三十四年に着手してから十二年度を迎えました。

四十四年度までに測量済みの面積は三十八・五平方キロメートルで、町全体の五一・九%が完了したことになります。

予算も年々伸びていますが、他の事業と比較すれば少ない部類といえることができます。その伴にもかわらず、本年度の予算額(地籍調査費)は四百三十九万九千円で、四十四年度当初予算に比べると六五・六七%にすぎない数字となりました。これは、本年度は航空測量を休むためです。

予算総額の中で一番多いのは資金で、全体の五一・九%に当たる二百二十三万七千円を計上しました。それというのにも、国土調査は、土地の現況を一筆ごとに正しくつかんだうえ、正確に測量することが目的ですから、大ぜいの測量人夫を必要とするためです。

次は工事請負費の七十一万四千円。以下、需用費、旅費、超過勤務手当、備品購入費等の順序になっています。歳入に関係あるものとして、この国土調査事業は、四十四年度

成でないこと、また、建設単価が前年の歩掛かりであるためなどからして、さらに、相当額の補正増が必要であると考えられます。

また、本年度の事業費は確定していませんが、ひとまず三百三十五万五千円の補助金を見込み、町費百万四千円を加えて予算を編成しました。事業量は、総部測量四・五平方キロメートル、面積測定六平方キロメートル、地籍簿作成六平方キロメートルを実施する計画でいます。



ことしも始まった国土調査の一筆地測量

の交付を受けて実施することになりました。補助金の額は、国の定めた事業費の六分の五が交付されます。

また、本年度の事業費は確定していませんが、ひとまず三百三十五万五千円の補助金を見込み、町費百万四千円を加えて予算を編成しました。事業量は、総部測量四・五平方キロメートル、面積測定六平方キロメートル、地籍簿作成六平方キロメートルを実施する計画でいます。

歳入歳出を通じて新年度予算の性格をもう少し別の面からしらべてみると次のとおりです。まず、歳出の内容を性別別にみると消費的経費の率が減り投資的経費が増加するという好ましい傾向を見せています。消費的経費の中では代表格の人員費が一億二千七百七十一万円で、歳出総額の二七・五%と前年度の三二・二%に比べて四・七%も低くなっていることが消費的経費全体の比率を下げたおもな原因です。これとは対照的に投資的経費の面では普通建設事業費が三一・六%と前年度より四%、災害復旧事業費が九・三%で一・二%いずれも高くなっており、財政構造の健全性を示しています。

また、一般財源から臨時的なものを除いた、いわゆる經常一般財源のうち、人件費・物件費等の經常経費に充たされた額の割合を經常収支比率といいますが、この率が低いほど經常財源を投資的経費にまわす額が多くなるわけです。新年度予算ではこの經常収支比率が七三・五%となり、前年度より若干下がってはいますけれども、七五%以下に押えられていることは、この面からも健全性が立証されているということが出来ます。

しかし、今後なお相当額の補正増を必要とすることが予想されますが、当初予算額の伸びが大きかっただけに補正財源の見通しについては必ずしも樂觀を許さないものがあり、今後の財政運営には十分慎重を期する必

# 四百萬の納税総償費

企画室長 水品 宗雄

はじめに、「予算を語る」といふこの号の編集意図というものは、皆さんに直接関係の深い福祉的な面や建設的経費についてご理解いただくことにあり、当課の性格としていささか相違いたしますが、仕事の一面を知っていただくというところで筆を進めてみますからご了承ください。

税務課の仕事は、町の運営費の一分野を占める印税を確保するということです。

当初予算に計上された町税は一億二千百万円ほどになり、一般会計で占める割合は、二五強と

いう大きな額になりました。この、たいせつな資金を確保するため「徴税費」という費用を設けて、そのための経費を支出することになります。

前述いたしましたように、徴税費は皆さんに喜んでいただけるようなものの計上はほとんどなく、仕事の性格上、おおむね経費的な人件費や事務費、調査費等で全体の構成がなされています。

しかしながら、その内容を分析すると、金額の多少にかかわらず納税に対する大きな意義が含まれていることを感じます。

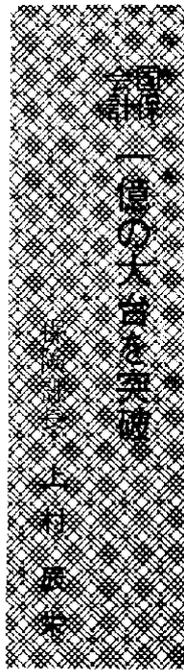
それは、まず、税は担税力に応じて公平でなければならず、場合によっては、異議の申立てを認め必要に応じて救済措置を講ずるよう、そのための経費が計上されて

いることです。

また、納税に対する報償については、総額四百二十万円の予算も計上されました。ちなみに、その内訳は次のとおりです。

納期前納付報償金 一八九万  
奨励金 一八二万

この報償費を含めて、徴税費の総額は約一千二百十万円になります。この額で「地域社会の会費」といわれる税を、「力」に応じて負担していただくための努力をさらに続けたいので、何分のご理解とご協力を切望いたします。



健康管理室関係の予算概要について説明いたしますが、事業ごとに金額を掲げるとどめてご容赦いただきたいと思います。

☆ ☆ ☆

予防接種 一五七万四千円  
内訳 人件費 四二万四千円  
物件費 一一五万〇千円

へき地医薬品の配布 二二万四千円 (三九〇世帯分)

慶応大学失事振活動の費用 四〇万〇千円

栄養料理講習会 七万〇千円

結核の健康診断(レントゲン、七千人対象) 二八万八千円

胃がん検診(二千人対象) 二〇万〇千円

子宮がん検診 二万〇千円 (二百人対象)

赤痢検便(幼稚園・保育所 四七〇人対象) 二万三千円

ゴミ・危険物処理費 三六万〇千円

内訳 人件費 二一〇千円  
物件費 一五万〇千円

火葬場経費 二七万六千円

霊きゆう車経費 六万一千円

清掃事業費(薬剤ほか) 六七万〇千円

公衆衛生推進委員関係費用 四二万二千円

下水側こう(溝)整備費 一五万〇千円

妊産婦検診費 一五万八千円

指導費 一七万五千円

妊婦栄養強化ミルク支給費

乳幼児検診費 一〇万九千円

指導費 一三万九千円

母子健康センター経費(見込み一六〇人) 二九万九千円

内訳 人件費 二〇万七千円  
物件費はか九万四千円

へき地患者輸送施設費 七〇万四千円

予算 一般的の意味としては、一定期間中の収入および支出の見積りのことをいいますが、地方公共団体の予算の場合、歳入歳出予算・継続費・繰越明許費・債務負担行為・地方債・一時借入金・歳出予算の各案の金額の流用に関する定めを総括した概念ということになります。

性質的には、歳入予算は単なる見積りですが、歳出予算は、見積りであると同時に、支出の限度・内容を定める法的拘束力を有します。

予算は、長が調製して議会に提出し、年度開始前にその議決を経なければなりません。例外的に長の専決で定められる場合もあります。

予算には、一般会計予算と特別会計予算、通常予算と補正予算、年間予算と暫定予算、骨格予算と肉付け予算、議決予算と実行予算等の種類があります。

納税組合事務交付金 三二万  
その他 九万

これらの意味するところは、納税努力に応じて、いささかなりとも報いたいという以外の何物でもありません。

健康管理室長 星名 憲三

慶大医事振(こ)しもしも来町

要があると思われまます。

企画室長 丸山精二郎

支払日をもう一度確認

収入役室から、主として商店の皆さんへ役場の支払日についてお知らせします。確認のうえ、遺漏のないようご協力をお願いします。

支払日は 毎月 十日・二十五日の両日です。

請求は ○十日支払の場合、五日締切りの請求書を七日までに関係課へ提出してください。

○二十五日支払の場合、二十日締切りの請求書を二十二日までに関係課へ提出してください。

支払方法

○支払いは、口座振替を原則とします。

○十日・二十五日が休日の場合、支払いは翌日になります。

○月一回を希望されるかたは二十五日の支払日としてください。

収入役室長 田口 一朗

一億六十六万二千円と、この事業で初めて一億の大台に達しました。歳入は、保険料三千四百五十五万五千円(三四・四多)、国庫支出金六千一百二十九万九千円(六〇・九多)、一般会計からの繰入金四百七十万円(四・六多)が主たるもので、その他、若干の収入を見込んでいます。

皆さんからいただく保険料は五百万円ほどふえて、結局、一世帯平均一万七千三百八十七円、一人平均では四千二百七十二円となりました。これは、月平均で一世帯当たり約二百円の増額になります。

その各世帯ごとの保険料も、本算定によつて、所得・資産・人員割、平均割の方法で算出しますから多少の増減が出てきます。本算定の時期はいまのところ九月と予定

定しています。

歳出では、なんといつても保険給付費として支払うものが最も大きく、これが九千六十六万三千円(九〇・一多)、次は総務管理費の五百五十万九千円、以下、保健施設費二百七十万二千円等々と続きます。

ご承知のように、医療費・利用数とも、年々増加の一途をたどつています。医療機関の利用という点については、早期発見、早期治療は医療費節約の第一歩ですが、みだりに利用されると保険料増高の一因となります。健康で明るい家庭をつくるためにも、国保をよりよく育てて、安心して社会生活がおくられるよう、特段のご理解ご協力を願います。

なお、助産費・葬祭費・育児費は、前年同様で給付します。

予算

予算には、一般会計予算と特別会計予算、通常予算と補正予算、年間予算と暫定予算、骨格予算と肉付け予算、議決予算と実行予算等の種類があります。

支払方法

○支払いは、口座振替を原則とします。

○十日・二十五日が休日の場合、支払いは翌日になります。

○月一回を希望されるかたは二十五日の支払日としてください。

収入役室長 田口 一朗

